

【学習活動の概要】

1 単元名 登場人物のその後の生き方を考える（『夏の葬列』）～感想を交流する～

2 単元の目標

『夏の葬列』の登場人物の言動の意味を考え，内容の理解を深めるとともに，作品に表れている考え方について自分の考えをもつことができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

物語について感想をもち，交流して考えを深めようとしている。

【読む能力】

- ・描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて物語の内容を理解し，自分の感想をもっている。
- ・物語に表れているものの見方や考え方について，自分の知識や体験と関連付けて感想をまとめ，交流している。

【言語についての知識・理解・技能】

文章を読む際に，抽象的な概念を表す語句などに注意して読んでいる。

4 教材

『夏の葬列』（山川方夫）

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全４時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第１時	学習の見通しをもつ。	
第２時	全文を通読し，作品に対する感想をもつ。	○「彼のその後の生き方」について感想をもつために，現在→過去→現在の流れや，「彼」，「おれ」，「ぼく」の人称を表す言葉の使い分けの意味を考えさせる。 ○本文を根拠にして「（～の時に）もう一度来る」，「二度と来ない」のどちらだと思うかについて意見を出し合う。
第３時	物語の全体の構成をつかむ。 冒頭と結末の「彼」の様子を比較し，「埋葬」，「封印」，「追放」が表しているものについて考える。	
第４時（本時）	「彼が再びこの町に来るかどうか」について自分の考えをもつ。	

(2) 本時の学習（４／４時間）

- ① 「この町を去る彼が，この町にもう一度来ることもあるか」について，グループで交流し，その後，全体で意見を交流する。☑ …予想される反応
- ☑（「もう一度来る」という意見）  
「たぶん未来の中の別な夏に，自分はまた今と同じ風景を眺め，今と同じ音を聞くのだからという気がした」というところから，昔のつらい出来事を背負って生き続ける苦しさに耐えられなくなったときか，困難な物事に直面して逃げ場がなくなったときに来るのではないか。
- ☑（「二度と来ない」という意見）  
「この二つの死は，結局，おれの中に埋葬されるほかはないのだ。」というところから，この思い出は彼の心の中に一生しまいこんでおくことが分かるし，「埋葬」という表現からも，それを再び思い出させるような場所に自ら行くはずがない。
- ② 「彼のその後の生き方」について考える。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本事例では、中学校学習指導要領・国語の第2学年「読むこと」の指導事項「イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」と、「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」を指導する。特に、登場人物の言動や描写の効果から内容を理解し、それらを根拠に自分の考えをもたせるようにする。

さらに、関連する内容として、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(1)イ(イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。」を位置付ける。『夏の葬列』では、「埋葬」、「封印」、「追放」などの語句が特別な意味をもって使われており、辞書的な意味を確認するとともに、その語句の文脈上の意味を明確にして理解を深めるようにする。

【言語活動の充実の工夫】

上述の内容を効果的に指導するために、言語活動を設定する。第2学年「読むこと」の言語活動例は、次の3つであり、本事例では、アの言語活動例を具体化した。

- ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。
- イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。
- ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。

この作品は、スピード感があることや、「踏切」を境にして現在と過去が配置されていることから、本単元では、段落ごとに読んでいくのではなく、全体をひとまとまりとして扱うことにした。物語の全体をとらえた上で自分の感想をもたせ、登場人物の行動や心情を理解するだけでなく、読み手の体験を重ね合わせた上で他の人と交流させた。そのことによって、作品に対する思いが深くなっていった。

感想を交流するために、下のようなワークシートを用意した。自分の考えと共に共感した他の人の考えを記入できるようになっている。交流では、次のような意見も出た。

「来る」、「来ない」にかかわらず、彼が逃げようとしていた今までは違って、二人の死に対する覚悟のようなものを背負ったことが、「彼の足どりをひどく確実なものにしていた」という表現から分かる。自分はこんな苦しい経験をしたことはないが、苦しいときは「足どりが重くなる」と表現する。「確実な」という表現からも何かを覚悟したことが分かる。

感想交流のワークシートの例

<p>彼の幸福をさがしてほしい。</p>	<p>□ 自分の意見</p> <p>いつまでも二つの死から逃げようと思わずに死ぬまで自分の中にある二つのお墓を守り続けてほしい。私は、自分との約束を守ることが一番大切だと身にしみて感じたことがあるので。</p> <p>□ ○○さんの意見</p> <p>小学生のころから罪の意識に苦しんだ彼。だてヒロ子さんやヒロ子さんのお母さんと同じように戦争の被害者だ。二人の死を胸に秋めつつ、彼は</p>	<p>③ これからの彼に、あなたはどんな生き方を願うかをあなたの経験と照らし合わせて書きなさい。</p> <p>「来ない派」の○○さん。彼の中にある二つの魂は、彼から離れることは絶対にならないので、彼がもう一度この芋畑に来て、そこに二人の魂はないのだから来ないという考えに心をゆさぶられました。</p>	<p>② 話し合いの中で心に響いた意見</p> <p>「自分はまだ今と同じ風景を眺め、今と同じ音を聞くのだろう」という気がした。逃げ場所はないと覚悟を決めた彼が、自分の中に埋葬された、二つの死を深く確実なものにするためには、この町を訪れるのが一番だと考える。</p>	<p>① あなたは、「彼」がもう一度この町に来ると思いますか</p> <p>① A 来る 来ない</p> <p>いつ (数年後の八月十四日) B 来る 来ない</p>
----------------------	---	---	---	---

- ① 本文を根拠に挙げて、自分の立場を明確にさせる。
- ② 話し合いの中で、心に響いた意見を書き、自分の意見と比べる。
- ③ 話し合いを受けて主人公がこれからどう生きていくかを、自分の体験と重ね合わせて書く。自分と異なった意見でも、共感できるものがあれば書き留める。